

大濠公園

福岡県福岡市

公園面積 約 39.8ha
開発年次 1929年3月



出典：大濠公園ホームページ
<https://www.ohorikouen.jp/>

江戸時代、この地は筑前堀と共に福岡城の外濠としての役割を担っていた。しかし明治時代に福岡城が廃城となったのち筑前堀が埋め立てられると、水の循環が滞ったことによる環境悪化が問題となり、明治末より大堀を埋め立てる計画が複数建てられた。そんな中福岡市が招聘した本多静六と永見健一により設計されたのがこの大濠公園である。1929年に開園し、以来福岡の中心地に根付き、住民からも愛されている。

大濠公園には大きな特徴が3つある。まず一つに、その大部分を占める池。約22.6haもの面積をもつ池には橋で結ばれた中の島があったり、白鳥ボートが楽しめたり、池

の水辺にはベンチが並んでいたり、都会の喧騒の近くにあって自然的空間を楽しめる場所となっている。

二つ目の特徴は、池を取り囲む周回園路の存在だろう。通行者の目的に合わせて舗装の異なる道が整備されている(図7)。最も池に近い散策路はレンガ舗装で、両側を池と植栽に囲まれながらウォーキングをすることができる。安全が確保されており、子供から高齢者までの幅広い年齢層の人が散策したり犬の散歩をしたりしている。植栽帯を挟んで横には内周園路があり、こちらは足に負担の少ないゴムチップ舗装のジョギング用の道となっている。そして外周園路はアスファルト舗装であり、サイクリングが楽しめ



図1 散策路と道沿いの滞留空間



図2 道沿いに設置された休憩所



図3 池を眺めることのできるベンチ



図4 大規模な遊具のあるくじら公園



図5 一周2kmのランニングコースに記された距離表示



図6 走行路を示した案内板



図8 池を囲む回遊性のある散策路

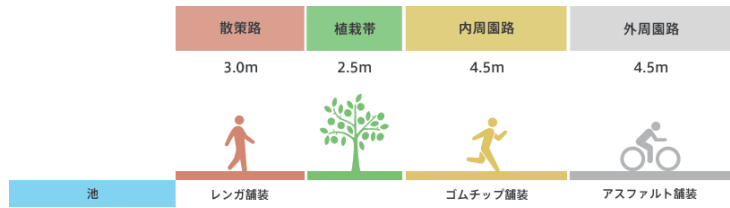


図7 舗装の異なる走行路の特徴を表した図（大濠公園ホームページより）



図9 池を縦断する橋と緑豊かな島



図10 市民が育てるひまわり



図11 福岡市美術館

(写真は全て筆者撮影)

る。1周約2kmの多様な性格をもつ周回園路では、早朝から夜間まで様々な人が身体を動かし、賑わいが生まれている。

そして三つ目の特徴が、福岡の歴史と文化を感じられる場所であるということ。福岡城跡に隣接しているというだけでなく、日本庭園や能楽堂、福岡市美術館があるなど、歴史と文化の中心地としての賑わいを持っている。また2029年度には新たに福岡県立美術館が開館する予定

となっており、文化拠点としての役割を一層強める。

長年市民の身体活動の場として親しまれ愛されてきた大濠公園では、地域住民によるボランティア活動も活発に行われている。毎月の清掃活動や季節に合わせた園芸活動、ボランティアを行う「大濠公園をよくする会」による公園利用者のマナーアップを啓発する活動など、市民の手によって公園が守られ、また市民の活動の場にもなっている。

参考文献

・大濠・西公園管理事務所。「大濠公園」. <https://www.ohorikouen.jp/>, (参照 2024-07-29)